

HARLEM

SPITEN OUT! "It's absolutely RAW!"

-This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene...-

CONTENTS OF DECEMBER 2001

SPECIAL INTERVIEW "RHYMESTER" page 01	EVENTS SCHEDULE - December to January 2002 page 02	RECOMMENDED EVENTS - Event Information page 03	EVENT REPORT - 01 - '01.10.26 Daddy's House - '01.10.30 Lucky Strike presents Red Zone Halloween Special - '01.11.09 Daddy's House Special "DJ Clark Kent Japan Tour" page 04	ROCK THE CITY - Who We Be Edited by Yas 5 (UBG) EVENT REPORT - 02 - '01.11.22 Hide and Seek presents Bad Attitude - '01.11.23 Daddy's House Stussy World Tribe 2001 WHAT'S CRACKIN'? - Grope in The Dark page 05	DISCS FILE - Selected by HomeBass Records MINAMIDAI TSU-SHIN - Minamidai MINI INTERVIEW - DJ Tony Touch page 06	SYOGOYU-MUJO-NO-HIBIKI-ARI - Maki the Magic MINI INTERVIEW - DJ Clark Kent MO' INFO STAFF STAFF STAFF PRESENT page 07	LOOKIN' FOR DA "REAL SH#%T !!!" page 08
----------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------

Special Interview RHYMESTER

ウワサのRHYMESTER、本誌巻頭初登場!! HARLEMでは12/31のカウントダウンイベントに出演してくれますヨ。アルバム予習の上、今年の新越しはHARLEM集合!とその前にまずはHARLEMにて行われた本インタビューをお楽しみ下さい。

●まずはアルバムの完成おめでとうございます。アルバムを作り終えての率直な感想は?

MUMMY-D (以下D): オレは作り終わったら多分泣くだろうと思ってたけど、全然そういうムードじゃないんだよね。サンプリングのクリアランスとかの問題で、なかなか終わらないんだよ。だから未だに打ち上げもやってないよ。

宇多丸 (以下U): ホントそれが結構引っ張っていて、出来るのに「アルバムどうなの?」って聞かれると「うんうん、まあ…」みたいな煮え切らない時期が一月くらい続いて。ジャケットもギリギリまでやってたしね。だから物があがってきてからかな。あんまりまだ直の感想は聞いてないし、これからじゃない? 実感がわくのほ。

●アルバムの最大の聴き所は?

JIN (以下J): オレはもう決まっています!
U: 今回はDJ JINのちょっとしたチャレンジがあって、それは多分何にも知らないで聴いていた人はびっくりしちゃうんじゃないかという…。

J: 知り合いがテープ聴いて「オレがJINだ」って言うてる人誰? って。「オレがJINだ」って言うてるんだからオレだよ、それ以外誰なんだよ〜(笑)。

U: そういう深読みさえ生まれる始末。「オレがJINだ」って言うてるから多分違うと思った」と言われるともう何でもアリだなあと。聴き所としては、例えば最初のシングル「ロイヤル・ストレート・フラッシュ」のように割とストレートなライムスターっぽい曲もあるけど、意外とみんなが思っているライムスターっぽさとはまた違うような、いい意味で期待を裏切る感じで。アルバムタイトルは「ウワサの真相」。「リスペクト」の次は「ウワサの真相」という、この流れからしてもお分かりの通り、思ってもみなかった方法で攻めてみたりという曲もあるんじゃないかな、と。みんなが思っている以上にチャレンジしているアルバムだと思うので、そのこの所かな。

●そのJINさんのラップ姿はハーレムで見ることが出来ますか?

J: 見れます!! やるよな?

U: 特に全国の兄貴達は楽しみにして下さい。ハーレムではまずは大晦日にお披露目です。

D: ビジュアル的によく見えるようにして欲しいよね。最近振りも付いて来てるから。

J: 顔がすごいポイントなので。やっぱりJINは顔だな、と。U: 無意識のうちにもやっているんですよ…。つい出ちゃうんです、動きや顔が…。自分ではどうなっているかわからないんですよ。憶えていないくらい結構構想が高まっている感じのオレをお見せします。

●現在発売中の先行シングル「ロイヤル・ストレート・フラッシュ」は四つ打ちのビートで古さと新しさが混同している作品だと思いますが、世の中的な反響は?

U: 今回のアルバム全体がそうなんだけど、聴く人によって全然感想が違って、この曲も「すごくライムスターらしい」という人もいれば、「今回はなんかちょっと変わった感じで…」という人もいて、まあどっちも合ってるという感じで。四つ打ちというの確かにその通りで、トラック作っている時にビート困って、

D: うん、いろいろ試したんだけどあんまり新しくならなくて、困った末にブリッと出てきたビートだったんだよ。昔と同じようなトラックだと、昔と同じようなラップしか出てこないんだ。だから今回はアルバム全体を通して、結構おかしいビートとか、おかしな曲調とかは意識した。

●リリックのインスパイア元は?

D: 今回は思いっきり映画もある。思いっきり映画から持ってくる事もあるけど。

U: もちろん映画は好きだから、映画のタイトルからインスパイアされているのはあるけど、実際その中身と関係あるかという、関係なかったりする。だから映画や本というよりは、やっぱり日常生活でのパカ話とかが一番のインスパイア元だね。ハーレムが舞台になった曲とかあるからねえ〜。ハーレム女子トイレにおけるドキュメンタリーとか描かれてる。

D: 今回はハーレムソング多いね。歌詞を書く時にね、中2Fの辺りからフロアを見ているオレとかをすごい想像しながら書いていたりとか。あとは中2Fに行く階段の折れ曲がった辺りの歌詞とか、いろんな人達がオレの頭の中に出てきて。パカ話をしてポロっと出てきたものがたままって、それがいい感じに発酵した頃に、いい感じに漬かった頃に…蔵出し!!(笑)

U: 日常とかパカ話が僕らの「リアル」なんですよ。

●今一番興味のある音楽や刺激を受けた音楽またはアーティストは?

J: オレは何でも聴きますよ。「リスペクト」以降、今回のアルバムを制作して出す間で変わった部分としては、クラブプレイを本格的に増やしてみようかな、と。前々からいろんな音楽には接していたんですけど、ゴリゴリHIP HOPじゃないハコで、HIP HOPやR&Bだけじゃなく、FUNKとかレアグループとかJAZZとか、それも昔のものばかりじゃなくて、今のいろんなタイプのグループなものをかける。そういう事をずっとやり続けていて、それが音楽的な肥やしになってる。ちなみに最近聴いているのは「THE FUNKY 16 CORNERS」というコンビです。

D: 意外とすげー普通の聴いているよ。JAY-ZとかP.DIDDYとか。ホントハーレムでかかるような曲が、ここ2〜3年くらいは一番アバンギャルドな感じがして。それが制作に直接刺激には一番なるかな。普通のFUNKみたいなものでも最近いいコンビがいっぱい出てるしね。車で流し聴きだから曲名もアーティストも全然憶えないんだけど、そういうのは常に耳に入ってるね。普段は限りなく無音状態に近い。あまりに生活が音楽音楽してるから、なにも聴かないということが一番多いかな。それに、CDとかデモテープとか人からもらっちゃう。そういうの聴くだけでかなりの時間を費やすからね。

U: 今日ライムスターは全員DJやってるんだよ。つまり僕もここ1年DJの修行をしてるんだよ。歌謡曲とか日本語もののDJをやって、宇都宮まで毎月修行に行ってるんだけど。元々日本語の歌が好きで、ま、アイドルの歌とか。なので本格的に毎月お客の前でやるようになったから、今まで一生の中で多分一番音楽を買って聴いているんじゃないかって、当然買うし聴くんだけど。そうすると日本語という縛りがあるっていうだけで、歌謡曲ってすぐ隣に全く違うジャンルが来るというか、ある意味世界中の全ての音楽のジャンルがその中にあるような。それ以前まで自分が偏見をもって音楽を聴いていたな、みたいのがあって。まあオレは現時点ではトラックを作っていないから、それが音楽的に反映されている事はないんだけど、すごい音楽に対してオープンマインドになったかなって感じがするね。ロックっぽい曲とか全然受け付けなかったんだけど、そういうものの良さとかが分かったり、すごくこの1年は実りが多かった。

●ハーレムはライムスターにとってどんな場所ですか?

D: 多分オレが一番べったりじゃん。DJもしたりするし。ファミリーがオレらの、FGのホームグラウンドだとしたら…なんだ? ハーレム?

U: オレは基本的に出不精で、クラブとかあんまり行かないんだけど、行くとしたらハーレムかファミリーなの。最初ハーレムが出来て超盛り上がり過ぎて、ライブとかちよこちよこやらせてもらっていた頃、(無料で)入れてくれたりするじゃないですか、お酒とかくれたりするじゃないですか。それが今でも申し訳なくてね〜。オレなんかしてそんなしてくれていいんですか? みたいな感じがして。遊ばせてもらって感謝しているのと同時に、ハーレムがない東京のHIP HOPの夜っていうのが想像出来ないくらいに、多分オレだけじゃなくて、みんななってると思うけど、もっとみんなハーレムに感謝した方がいいよ! というかなかなかヤバイ。なかったら多分東京のHIP HOPの在り方が崩れてると思う。みんなあまりにも当たり前になっちゃっているから、あんまりそういう事考えないかも知れないけど、感謝した方がいいよ、という感じだね。

J: 一言で言うのはなかなか難しいんですけど、とり



あえずどこか飲みに行こうか〜、じゃあハーレム行く? という安心出来るような場所。イメージ的に言うと、子供が空き地とかに遊びに行って、あそこに行けば誰かいる、みたいな感じにフラッと来て楽しませて頂いている場所です。

D: いい意味で遊びと仕事の境目がない所。一番の遊び場でもあるし、一番の仕事場でもあるという感じがかな?

●ハーレムに期待するものは?

U: オレが何故日本語のDJをやっているかと言うと、ハーレムに限らず、クラブでオレが聴きたい音楽が必ずしもかかってないという現状があり、オレだったらこういうのが楽しいのにならうというのを自分で今やっている所なので、いずれは僕が考える状態がハーレムでもすごく普通に…、そんな事はまずないのかも知れないけど…。要はなんで一晩中英語圏の曲を聴いてなきゃいけないのかな? って。もし何の境目もないんだとしたら、日本語圏のクラブなんだから、日本語圏の中の比率での「英語の曲のかり方」がホントはあっていい。多分オレが今やっている事っていうのは、それに対するあえてアンチってわけじゃない。だからもう日本語しかかけない、意固地だね。ハーレムはわりと最先端、例えばNY型に近い訳で、ある意味それはそれでやってて下さいという感じで。文句を言うんじゃない、オレはオレなりのものをやってみようかな〜と。だからこそたまにハーレムに来ればおもしろい。全部同じになったら面白くないし。だから良き王道であって欲しい。王道はずれたらハーレムじゃないし。

D: オレがハーレムに期待する事は、とにかく無くなってくれ、ということだけだね。それは非常に困るほど大変だと思うけど、定位がなくなると困っちゃうから、無くないで欲しいというだけかな。

J: オレは無いっちゃ無いんですけど、やっぱりカラーが固まっていると思うので、その辺を崩しながらも東京のHIP HOPのクラブっていうのを作って行く、別に今も作っているけど、これからは盛り上げてずっと営業して欲しいですね。

●自分達の作品の中でのマイクラシックは?

U: 「ウワサの真相」かな。新しい方がオレは出来がどんどん出来が良くなって来ていると思う。

J: オレは「Hey, DJ JIN」です(笑)。

D: う〜ん…「B-BOYイズム」!! いろんな事を教えられた。例えば曲というのはい人歩きをするもんだとか。自分が最高だと思った出来のものがそのまま評価される訳ではないとか。「B-BOYイズム」が出来上がった時は、なんかどうなのこれ? 大丈夫かなこんなの、BPM早すぎね〜とか、イマイチびんとこなかったんだけど、ものすごい反響があって、オレらにとっての代表曲になったし、なかなか超えるの難しい壁にもなったし。あとは実際あの何小節かにあれだ

けノートの枚数を使った曲は未だにないので、思い出深い曲ですね。がんばらねば!

●ズバリ、ライムスターの考える人生のロイヤルストレートフラッシュ(最強の手)とは?

D: オレはね、今選んでる道がロイヤルストレートフラッシュなんだ、と思って生きております。人との勝負負けじゃなくて、例えばさ、今の仕事じゃない道もあつた訳じゃん。他の仕事を選んでいても多分楽しかったと思うし、別のゴールも見えていたと思うけど、そういういろんな選択肢がある中で一番ロイヤルストレートフラッシュ、もしくはそれに近い選択をオレはしていると思う。

U: 例えばね、オレはテリーというカレー屋さんのカレーがすごく好きなんだよ。スープとサラダとカレーとマンゴジュースというコースがあって、これがこの世の中で最も好きな食べ物なの。これ以上ウマイ物はオレにとってはない。で、食べ物に関してはオレは少なくとも1枚カードを揃えた。

D: (笑)食べ物なんだ、5枚のうちの1枚は。

U: いやいや、だから例えばの話よ。城みたいな家が一番いい家かという別にそうじゃないだろうし、自分にとって一番心地良い状態というのがある訳よ。オレは少なくとも食べ物に関しては分かった。でも全ての面においてそれが分かったら、人生最高の状態が割と手軽に続くというか。要するにお金がいっぱいあったりとか、単純に物質的に分量が多いことが幸せじゃなかったりするじゃない? 自分にとって何が幸せな状態かわかれば、その瞬間がロイヤルストレートフラッシュだと思う。特に食べ物に関してはすごく確信を持てるから言えるんだよ、オレは。

J: ロイヤルストレートフラッシュというのは結果じゃないですか。人生は結果の連続だけど、全部がプロセスでもあるから、何とも比較しようがないというか。最強の手を作りたから生きてる訳でもないし、まあ自分の中で、結果だけじゃないポジティブな何かを積み上げていく…だからもしかしたらロイヤルストレートフラッシュは無くてもいい部分もあるだろうしね。

●メッセージを一言。

U: ハーレムで見かけたら、僕は怖くないし、寂しがっているの、話しかけて下さい。

D: 中2階で待つて下さい!

J: 歩み続けますので、見守って下さい。

4th Album
"ウワサの真相"
Rhymer
2001.12.19 On Sale!
¥3,059 (tax in)
KSCL-430